

## ドイツの大学生が来市しました

8月18日（月）から31日（日）までの14日間にわたり、姉妹都市のあるドイツのミュンヘン大学の学生8人が来市し、市内の家庭にホームステイしながら日本の日常生活を体験しました。

一行は滞在中、日本語の学習をはじめ書道、華道、着物着付け、弓道など様々な日本文化を体験しました。また、栃木県の伝統工芸品であるふくべ細工作りを市内の子どもたちと一緒に楽しみました。学生たちは、初めて触れる日本の文化に興味津々の様子で、すべての体験に熱心に取り組みました。また、石橋高校の生徒との語学交流も行われ、互いの文化について話し合う貴重な体験となりました。

一行は、2週間の生活を共にしたホストファミリーとの別れを惜しみつつ、将来の再会を約束しながら、8月31日、下野市を後にしました。



## 香川県高松市小学生親善交流事業に行ってきました

8月6日（水）から8日（金）の3日間にわたり、「香川県高松市（旧国分寺町（こくぶんじちょう）」との友好親善交流として小学生派遣事業を実施しました。「国分寺町」という同じ町名から交流が始まり、両町とも、平成18年1月10日に合併し、それぞれ新しい市名に変わりました。町名は変わっても今までどおり友好親善を図るため、地域間交流という形で派遣事業を行いました。今回の派遣団は下野市内小学6年生19名、引率者（小学校教諭）2名と団長、事務局の23名でした。

初日は、地元小学生の太鼓演奏での出迎えと「讃岐うどん」でのもてなしを受け、本場の味を十分堪能しました。その後、讃岐国分寺資料館や史跡の見学を行い、間近に古代の歴史に触れることができました。2日目は、瀬戸内海での「地引網」の体験と海水浴でした。特に大半が初めての体験となった地引網においては大いに楽しめた様子でした。地引網で捕獲した魚やタコなどを地元の小学生や関係者の方々と一緒にバーベキューでおいしくいただきました。その後、栗林公園や屋島を見学し高松市の自然と風土を満喫しました。3日目の最終日は、「善通寺」と「金刀比羅宮」の参拝を行いました。暑さもありませんでしたが、高松市の小学生との交流や「讃岐国分寺」の歴史と自然に触れ合うことによりお互いの友好親善を深めることができましたと思います。

今回の交流事業を通して、参加した子どもたちには、「友好親善の大切さ」や「人とのふれあい」と同時に地元への郷土愛も深めてもらい、今後も友好の輪を広げていってほしいと思います。

